佐保台小学校稲刈りレポ

岡田 俊司

10月10日（木）、前日までの天気と打って変わっての秋晴れに恵まれて、佐保台小学校 5 年生による稲刈り体験が開催されました。

この恒例の行事も今年で 16 回目を迎えます。スタッフもマムシ除けをして万全の体制で参加者を迎えました。また、奈良テレビの方も取材にきてくれました。先生方と共に 30 名の児童がならやまを訪れ、早速稲刈りが始まりました。

まず、鈴木顧問・千載会長の挨拶と稲刈りの手順や注意点をイラストをまじえて説明したあと、スタッフによる手本を見てもらい、早速スタートです。鎌を持つのも初めての子どもたちがなれない手つきで稲を刈り始めます。

初めはおとなしかった子どもたちもだんだんとなれてきて楽しくなってきたのか、元気な声を上げながら稲刈りをしている姿を見ると、こっちまで楽しくなります。普段、静かなならやまに子どもたちの声が響き渡ると里山全体が活気に満ちてくるように感じました.

２組に分かれて１組目が稲を刈り、後の組が６束ずつひもで束ねます。そして２組目が途中で交代して稲を刈り、最初の組が今度は稲を束ねます。その間に稲刈りの終わった場所にはざかけ用の竹を組み、刈り取られ、束ねられた稲を干していきます。作業を終える頃はちょうどいい時間となっていました。終わってみると、みんな泥だらけ！　しりもちをついたのかお尻までどろんこの児童もいました。

最後に千載会長、鈴木顧問のあいさつと児童を代表しての「楽しかったです」のお礼のあいさつで、けがもなく無事に稲刈りを終えました。

普段、鎌など持つこともなく、田んぼに入ることもない現代の子どもたちに自然の営みの一端でも感じてもらえたかなと思いました。このお米は、佐保台小学校の給食に登場する予定です。

後日、佐保台小学校５年生のみなさんからお手紙をいただきましたので、その中から一部抜粋して、複数の児童の声をご紹介いたします。

★「ぼくは、田植えをするときに思った以上に大変だったから、早く育ってほしいと思いました。４か月たってみたら、稲がぼくの腰くらいまで育っていたのでうれしかったです」

★「はじめは鎌がこわかったけど、なれるとこわくなくなりました。農家の人の大変さとお米ひとつぶひとつぶの大切さを知りました」

★「稲を束ねるとき、きつく結ぶことを教えていただきました。長ぐつがぬげてしまったときに肩を貸していただきありがとうございました」

★「田植えも稲刈りも、稲を束ねるのも全部楽しかったです。さよむらさき、というお米の品種を初めて知りました。給食で食べるのが楽しみです」

★「田植えや稲刈りはどうしたらいいか、みなさんがやさしく教えてくださったので、いい体験になりました。みなさんの大変な思いや愛情はお米がおいしくなる秘訣だと思いました」

★「みんなで協力するのは、思ったより楽しく、こんなにすてきなのかと、何よりもチームワークということを教えてもらいました」

★「田植えも稲刈りも楽しすぎて、大きくなったら、家に田んぼを作ろうと考えています。自分で作ったお米はおいしいだろうと思います。会のみなさん、がんばりすぎないで、たまには休んでください」